

大阪

あんなとこ
こんなとこ

『天神橋』

天神橋は一丁目から八丁目まであり、天神橋北詰から長柄橋南詰めまでの南北約3kmに位置します。周辺一帯いたる所に、歴史的・文化的遺産が多く存在し、その町筋に日本一長いと言われる天神橋筋商店街があり、興味の尽きない所です。今回は、天神橋について調べてみました。

浪花の三大橋

天神橋は、豊臣秀吉の頃に上町台地と大坂の北部を結ぶ橋として架けられたと言われてます。初めは新橋と呼ばれていましたが、天満宮が管理する事となり、天神橋と呼ばれるようになったそうです。1634年(寛永11)には、公儀橋となり、天満橋、難波橋と共に「浪花の三大橋」として親しまれ、童歌にも歌われたと言います。橋の長さは浪花三大橋の中では最長で、1686年(貞享3)の治水工事により、更に137間4尺(約250m)まで長くなったそうです。また、天満宮の神主によって祈祷されていたことを「撰津名所図会大成」の中に見ることができます。1885年(明治18)淀川大洪水によって流失しますが、三年の歳月を経てドイツ製の鉄橋として再生されます。現在の橋は、1934年(昭和9)、第1次都市計画事業により完成しました。

天神橋筋商店街

天神橋筋商店街の歴史は古く、大阪天満宮が創祀された頃から自然発生的に物々交換の市が立ち、門前市として栄え、現在に至ると言われています。

明治20年代、大阪天満宮界隈には、芝居小屋や寄席が多く集り、その中には、吉本興業発祥の地といわれる「第二芸館」(後の天満花月)もあり、大阪の芸能、文化の地として有名だったそうです。戦前には、八軒の寄席がありましたが、全て姿を消します。2006年(平成18)天満繁盛亭が関西では戦後60年ぶりの落語の定席(毎日公演している小屋)として復活し、話題を呼びました。

南から北へ、一丁目、二丁目、三丁目…となるのは、大阪城を中心にして数えているからだそうですが、今回、天神橋筋商店街を歩いて天一、天二、天三…とそれぞれのアーケードの個性的な装飾や、人の流れ、商店に特徴がある事に改めて気付きました。また、普段気にも止めていなかった所に伝わる逸話など、来月も引き続きお伝えしたいと思います。



お迎え人形アーケードの入り口を飾る天二商店街

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞